

山岡昌之氏は長年にわたる地道な臨床活動の末、今や日本を代表する「心療内科医」として活躍している。また、「現代医学は臓器医学で、人を診ていない」と言われて久しい中、心療内科医の使命は、人間が主役となる医療を創造・提供することにある。『臓器を診るだけでなく、臓器を病んだ人間を全体として診る』と唱えている。

山岡氏は、「高度かつ大型の医療機器を駆使する専門化した臓器医療が進めば進む程、かえって医療のソフト面としての医師（治療者）と患者さんとの心の交流、すなわち医師と患者さんとの相互主体的な信頼

の医療」を行うカリスマ医師100人の中に数えられ、記事に掲載された。益々活躍の場は広がり、現在もおお、心療内科の第一人者で患者本位の姿勢で知られる名医の1人として数多くの講演会などで活躍している。さらに、医療従事者向け専門書籍から一般向け書籍まで、多くの著書がある。

通常の医療の概念からは想像もつかない程のスケールと「人類の幸せ」という医療の枠を超えた考えは、今後の医療の本質的なあり方を示唆しており、多くの人々に敬愛され頼りにされている。

人類の幸せを願い 病気ではなく『人間』を診る

関係の確立が、より重要になってきている」という考えから、日常診療の中で患者さんとの信頼関係の確立を目指した医療を実施している。その端的な表れとして、治療抵抗性で名高い「摂食障害（拒食症・過食症）」の多くの症例を治癒に導き、その家族からは、「奇跡が起きた」と称される程である。そして、目の前の難治性の摂食障害がいの患者さんが独自の治療で治っていく過程を検討し、「再養育療法」という患者さんの母親が育て直す技法・理論を打ち立てた。

その他、「うつ病」の治療にも造詣が深く、これまでの実績による活躍から、2007年、文藝春秋にて「最高



■山岡氏著書



■講演会風景



■患者さんの「心と体」を診る山岡氏



やま おか まさ ゆき

山岡 昌之 国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 副院長

1973年東京医科歯科大学医学部卒業。同年母校の第一内科へ入局。1977年国家公務員共済組合連合会九段坂病院内科に勤務し、現在は同病院の副院長を務める。心療内科専門医、東京医科歯科大学医学部臨床教授などを務める。働く人のメンタルヘルス・ハンドブック「知っていれば予防できる、心の医学」（社会保険出版社 共著）他著書多数。

推薦者 **秋山 洋** 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 名誉院長